

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	久留米大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クルメダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	文・法・経済・商学部
	担当教職員名・役職	酒井佳世・特命准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	23
	受入企業等数	20
	受入企業等名	アイ・ケイ・ケイ、アピックス、アルカディア、和泉プロパン、印象派、SMBC日興証券、エフコープ生活協同組合、九州日野自動車、コココーラウエスト、第一生命保険、大創産業、ティアーアンドイー、トーホービジネスサービス、トヨタカラー福岡、長崎銀行、ナフコ、西日本旅行、日本生命保険、浜屋百貨店、フタタ、三井住友銀行、三菱UFJメルガン・スタンレー証券、南福岡自動車学校、三好不動産、読売新聞西部本社、ラック、ロイヤルホールディングス、久留米市役所、大牟田市役所、佐賀市役所、自衛隊福岡地方協力本部、熊本県警察本部、鹿田産業、筑後市役所、HIROHAMA INDIA、Relocation International India、Habitare Hotel、Meera Samuh Corporate Services、Sushi Junction、Zero Plus、パソナインディア、西日本鉄道、NTT西日本グループ、フラフ、カウテレビジョン、プレスカンパニー、関家具、大川市役所、大木町役場、厚生労働省九州厚生局、北九州市役所、宮崎県庁、佐賀県庁、八代市役所、伊万里市役所等(順不同・敬称略)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,3.海外インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は、特定の就業体験に限定せず、学生のニーズに合わせた内容で実施している。(1.長期・3.海外)は、夏季休暇を利用して1ヶ月程度、海外・インドへの派遣がある。(他県をまたぐ広域)は、宮崎県等、九州圏内の地域で、主には参加学生の出身県での参加実績がある。また、本科目は、開講年次が1年次であることから、(5.低学年から)の参加がある。その他、大・中小に限らず幅広く学生を派遣している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している,2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次~3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全学共通教育科目のキャリア科目として、全学生対象に、「インターンシップ」を開講している。対象学年は1年次からとし、入学早期から将来に対して意識の向上をねらいとしている。同時に、3年次受講者は、就職活動前のキャリア選択として十分配慮している。前期は、事前学習、夏季休業中に実習を実施、そして後期は、事後学習としている。特に、事後学習は、より良いキャリア選択ができるように重点をおいて指導している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他

要素③	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	定期的な面談・訪問は、対象とする学生数が多く、かつ実施期間が集中している状況から、担当部局の担当職員と教員が協力して、常時、学生と連絡を取る体制を構築して、学生からの相談、緊急時の対応ができるようにしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	以下、5つのステップで進めている。①「インターンシップ」とはなにか、就業意義について正しく理解する。②実習先を検討する際に、必要な社会の情勢、業界・企業の選択方法について理解する。③選考に必要な書類(履歴書等)の作成を行う。④ビジネスマナーとコミュニケーションについての理解・実践を行う。⑤実習先の事業所の理解、または事前連絡・訪問の実施を行う。その他、大学全体で実施する事前研修会の参加も義務づけている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの経験をもとに、今後のキャリア選択と学生生活の目標と計画の作成を中心に実施している。内容は、以下3つである。①全体報告会で使用するスライド資料を作成して発表を行う。自身の経験を他者へ情報共有することで他者の経験を学びとする。②報告文書を作成して提出。③キャリア・ライフプランの作成と発表を実施する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	定期的な面談・訪問は、対象とする学生数が多く、かつ実施期間が集中している状況から、担当部局の担当職員と教員が協力して、常時、学生と連絡を取る体制を構築して、学生からの相談、緊急時の対応ができるようにしている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ前後で、社会人基礎力のルーブリック評価表を用いて、学生各自がチェックを行い、担当部局の職員と教員で確認を行っている。教育的効果の測定は、全体で集計・分析して、研鑽を行っている。その他、前期・後期終了時は、毎回アンケートを実施して事前・事後学習の理解度等についての測定を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	連続5日以上企業のみの単位付与の前提条件として、事業所を選択するように指導している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施期間中は、日報等で学生へ指導していただくように依頼している。終了後は、企業等から学生の評価をしていただき、評価表は学生へフィードバックできるようにしている。大学としては、企業等と常に情報交換できるように常に必要に応じて連絡を取るように体制を設けている。また、大学主催で企業との懇談会等を積極的に実施し、企業等の意見を直接伺う機会を設けて産官学連携のできる体制の構築に努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://portal.mii.kurume-u.ac.jp/campusweb/slbsbdr.do?value(riyunen)=2016&value(semekikn)=1&value(kougicd)=32002380&value(crclumcd)=1640400000
問い合わせ先	大学等名	久留米大学
	担当部署名	就職・キャリア支援課
	担当者役職名	特命准教授
	担当者氏名	酒井佳世
	電話番号	0942-43-4411
	メールアドレス	sakai_kayo@kurume-u.ac.jp